好きだから頑張れる。

「人が好き！」。沢山の人たちとの出会いが自分の財産

丹羽豊文

丹羽設計企画

丹羽豊文（にわとよふみ）さん。49歳。
丹羽設計企画代表取締役。
北海道立北見高等技術専門学院建築デザイン科卒業。地元の建設会社で3年間勤務の後、独立。昭和62年、父の豊成さんと2人で丹羽工務店設立。平成12年、丹羽設計企画分社設立。平成17年、自然素材建材・薪ストーブの販売施工を行う、夢FACTORY知床INCを設立。市街地に建つgreen's caféのオーナーでもある。ファース加盟工務店。

つくる喜びを共に味わう

毎日、ミツバチのように現場を飛び回る丹羽豊文さんに、最近、新しい楽しみができた。今年、長女の伴侶となった安田智大さんと一緒にギターを奏でるひと時だ。互いの技量を確かめ合うように、ロックの名曲を次々と繰り出しては弦をつま弾く。時代も世代も越えて、互いの耳に心に響き渡る調べは、丹羽さんを青春時代へといつしか誘ってゆく。

丹羽さんは昭和38年、斜里町の大工の長男として生まれた。小学生の時は昆虫が好きで昆虫博士と新聞に載ったり、ラジコン模型にはまって大人に混じりラジコン飛行機の競技大会に出るなど、活発な少年。そして中学生の頃に出会ったのがハードロックだった。「従兄が当時流行り始めていたKISSのLPレコードを貸してくれたんです。奇抜ないでたちに目を奪われ、ド派手なパフォーマンスと音の響きに耳も心も奪われました」。

ハードロッカーに憧れるようになった丹羽さんは、クラスの仲間を誘ってバンドを結成。KISS やディープパープル、QUEENなどの楽曲を次々にコピーし、夢中になってギターを弾いた。「調子に乗っていろいろな場所で演奏したなー。大きなイベントに『飛び入りで出してくれ』とお願いしたら、出られることになってしまって。でもこれがひどい演奏で、赤っ恥かいたことも。毎日が僕らにはお祭りのようでした」。

高校卒業が目前になっても、バンド熱は一向に冷めることなく、仲間も地元に残ることを決めていた。そこで、大工の父の背中を見て育った丹羽さんは、北見にあった北海道立北見高等技術専門学院建築デザイン科への進路を決めた。そして休みごとに斜里に戻っては、仲間とバンド活動に明け暮れ、時間があればギターを爪弾く毎日。頭の中は音楽一色だった。「ライブもよくやりました。結構ファンの人たちもいてくれて。ただ、その時の壁が自分たちのオリジナリティ。それをつくりだすのは難しいと感じていた。建築の仕事でも常に意識しているのがオリジナリティ、自分たちらしさなんです」。

3人の父に育てられて

学校を卒業した丹羽さんは、再び仲間が待つ斜里へ。父、豊成さんが勤めていた建設会社に入社。建築の仕事をしながら、バンド活動も続けていた。3年後、実務経験を積むうちに建築の面白さにも気づき始めた丹羽さんは、父と一緒に独立。丹羽工務店を立ち上げた。「独立したら、仕事が忙しくなって、音楽活動に充てる時間が徐々に無くなりました。24歳の時にバンドを解散しましたが、売れ筋や顧客のニーズをキャッチする感性、人に伝える力、プレゼンテーション能力など、音楽で培ったことが、建築の仕事でも大きな力になりました。だから、仲間と音楽漬けになっていた日々は、僕の永遠の財産なんです」。

バンドと決別した丹羽さんは、音楽活動を通じて知り合った麻美さんと結婚。3人の子どもにも恵まれた。そんな若い丹羽さんを、地元で設計事務所を主宰し建築士会の支部長も務めていた先達が、影に日向に応援してくれた。「設計や建築の事務処理などの師匠です。60歳で亡くなられた後は、私が建築士会の支部長を引き継いでいます。自分に建築の仕事を教えてくれたもう一人の父親のような存在です」。

音楽活動を通じて知り合った奥さんの麻美さんは、丹羽さんの支えであり、良き理解者でもある

さらに、32歳の時、丹羽さんが「人生の師」と呼ぶ人物に出会う。ファース工法の生みの親である、福地修悦さんがその人だ。丹羽さんは、仕事仲間に誘われて出掛けた展示会でファース工法を知った。会場で詳しく話を聞くほどに、自らが思い描いた健康的で快適な家づくりを実現するための必然の出会いだと直感。「何より、福地社長の人格と経営者としての考え方、生き方にほれ込みました」。

大工の実の父、設計者としての父、経営者としての父、3人の父に巡り合った丹羽さんは、前にも増して真剣に家業と向き合った。そして、すべての人と心を尽くして付き合うことを信条とするようになった。「現在の自分があるのは、人との出会いの結果。出会う人すべてがそういう良い縁でつながっていったら、素敵じゃないかなと思って」。

今を精一杯に生きる

順風満帆に思えた人生に、すっと影が忍び寄ったのは、35歳の時だった。体調がすぐれず訪れた病院で告げられた病名は、悪性リンパ腫。家庭では、妻の麻美さんが8歳の娘と3歳の息子の子育てに追われていた。しかし、麻美さんは主の不在をカバーすべく、入院先の病院と現場を往復し、丹羽さんとともにやりかけの仕事を全て完成させた。以来、麻美さんは大切な仕事のパートナーにもなった。

2年にわたる闘病生活を経て、丹羽さんは病を克服し、現場に復帰した。「思いがけず、大病を得て、人生はいつどうなるか分からない、その時、その時を大事に、楽しんで生きないといけないと、痛感しました」。そして、40代に向けて掲げていた「異業種の仕事にも取り組む」という目標に着手。「夢ファクトリー知床INC」を設立し、自然素材にこだわった塗り壁や、自然塗料、薪ストーブの販売、施工を始め、敷地内にショールームも設けた。また、6年前には、麻美さんと一緒に市街地に「グリーンズ・カフェ」もオープンし、飲食業にも取り組んでいる。「建築とカフェ、単価の桁のあまりの違いに驚いたり、未知の分野には発見がいっぱいあります。このカフェを通じて、出会う人のすそ野がさらに広がれば嬉しいなと思っています」。

事業に精力的に取り組む一方、家族の時間も今まで以上に大事にするようになった。剣道の道を究めるべく札幌に進学した長男が中学生の頃には、一緒に走り、素振りをチェックするのが日課。病を克服した後に生まれた10歳の次男とは、かつて自分が父に連れられて出掛けたように、一緒に釣りを楽しむ。「生きていくために必要なものを、どうやって得るか。父が釣りを通して教えてくれたことを、今度は息子に伝えたいと思っています」。

娘婿となった安田さんとギターを弾くのも、丹羽さんならではのコミュニケーション術でもある。「50代になったら、好きな仕事だけをする。これが次の僕の目標。今度は、婿さんとツインギターでバンドデビューしようかと思ってるんだけど、どうかな」。そう言って笑う丹羽さんの顔は、今を生きる喜びに輝いていた。

目標の1つだった異業種へのチャレンジとしてスタートした「グリーンズ・カフェ」のランチメニュー（写真右）と、塗り壁や薪ストーブを扱う「夢ファクトリー知床INC」のショールーム（写真中・左）

私たちが考えるのは、手作業の温かみや素材の魅力を引き出すアレンジ、環境負荷の少ないエネルギーを利用した住宅です。スタッフがお客様の理想の住まいをイメージしながら現場で日々葛藤し、泥臭く人間臭くつくる。それが家づくりの基本。自社製作の建具や家具をトータルで提案し、手間やコスト削減につなげています。常に見たり触る部分は子どもたちの成長過程で大きな影響を与えるからこそ、可能な限り自然素材にこだわった環境をつくり上げたい。住むほどに味わい深いオリジナルの家を。エネルギーは大切に使いたい。自然エネルギーを何倍にも増幅させるヒートポンプ技術を使ったあったかエアコンやエコキュートの採用で、必要最小限のエネルギーで生活できる住まいが理想であり、それに伴う住宅性能をファース工法で担保。薪ストーブで暖をとり、炎を楽しむ情緒や料理を楽しむ生活の喜びを伝えたい。昨今は省エネ・節電意識の高まりから、ヒートポンプと薪ストーブの組み合わせが高いシナジー効果を生み、どちらもゼロ・エミッションに向けて必要な設備だと考え、家づくりに取り込むのが、我々の使命と感じています。

(株)丹羽設計企画

斜里郡斜里町字豊倉55-61
TEL.0152-23-2760
FAX.0152-23-3872
http://www.scene21.jp/

1.互いの存在を感じられる一体感のあるLDK。暖房にはあったかエアコンを採用し、炎を楽しめる薪ストーブも準備(北見市K邸)
2.木製のカーポートを境界に設置し、圧迫感なく庭と外部をゾーニング(斜里町K邸 写真提供/丹羽設計企画)
3.落ち着いた色合いの外観(北見市K邸)
4.玄関を開けると奥に趣のあるLDKが広がる(北見市K邸)
5.カフェ兼ミーティングルームの「グリーンズ・カフェ」
6.ミーティングルームには大きなタモ材のテーブルが